

グローバル・スコープ

米中関係は米ソ冷戦と同じような全面的対立関係と思われるが、そう見てしまうと、政策を間違える。今日、米中関係は四つの側面を持つ複雑な関係であることを理解しなければならぬ。軍事的には厳しい対峙が続いていく。中国が軍事的に優位となる状況を米国が受け入れるはずはない。バイデン政権の基本政策は同盟諸国とともに対中抑止力を強化することにある。米英豪が結成したAUKUSはアフガニスタンやイラクで共同作戦を行ってきた諸国の中国を意識した新

「対立」「依存」複雑怪奇な米中



たな安全保障枠組みである。日米豪印のクアッド(Quad)の枠組みは安保の枠組みではないが、戦略的対中けん制の枠組みとな

る。中国はロシアと海軍艦船の隊列を組んで津軽海峡や大隅海峡を航行し東シナ海に抜ける異例の航海を行い、中国の戦略的結びつきをデモンストレーションした。台湾海峡は軍事的対峙が最も厳しい地域であり、中国軍機は頻繁に台湾が設定している防空識別圏(ADIZ)への進入を繰り返し、一方、米軍が台湾で台湾軍の訓練を行っていることが蔡英文総統

▲中国・ロシア両海軍の「海上合同パトロール」で津軽海峡を通過する軍艦(10月18日)中国国防省ホームページより

再生エネでも「覇権争い」

により明らかにされた。武力による台湾統一は中国にとってのコストがあまりに大きく、当面台湾有事となることはなからうが、将来の可能性は常に存在する。

という概念を喧伝し、巨大企業に規制の網をかけ、膨大な資金の供給を求め格差是正の一助にしようとする。経済関係の基本が両国の相互依存関係にあることは変わらない。

的なルール作りが求められる。グローバルゼーションが進んだ今日、気候変動などについての米中協力も必須となる。温室効果ガス排出量削減の目標作りや途上国への支援などで協力が不可欠になると同時に、再生可能エネルギー分野への投資、技術開発、商業化において

中国は香港や新疆ウイグル自治区での「中国化」を進め、西側の圧力に対しては内政干渉とはねのける。基本的人権や民主化の抑圧が続く限り、米中は政治的対立から逃れられない。ただ、ここには米中の統治体制の競争という面がある。米国の最も重要な政治課題は所得格差を中心とする国内分断の解消であるが、自由主義的な資本主義の論理からすれば、格差是正は難しい。中国は特色ある社会主義の下での「共同富裕」

の需要が高まっていることを背景にトランプ時代の米中合意の履行が急がれている。一方、機微な製品・素材・技術の取引は「経済安全保障」の見地から規制が拡大されていくのだろう。ここでは自由貿易と経済安全保障のバランスを図る国際

はすさまじい競争が起るのだろう。再生可能エネルギー技術を制する者が地政学的に有利な位置を占めるということだ。(第2・第4水曜日掲載)



日本総合研究所
国際戦略研究所
理事長

田中均